



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月31日

上場会社名 株式会社牧野フライス製作所 上場取引所 東
 コード番号 6135 URL <https://www.makino.co.jp/>
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 井上 真一
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役管理本部長(氏名) 永野 敏之 (TEL) 046-284-1439
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	122,872	57.3	5,193	—	7,131	—	5,860	—
2021年3月期第3四半期	78,101	△31.9	△4,615	—	△3,202	—	△3,859	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 8,316百万円(133.3%) 2021年3月期第3四半期 3,564百万円(440.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	242.37	—
2021年3月期第3四半期	△157.93	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	303,992	169,181	55.4
2021年3月期	280,015	161,992	57.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 168,358百万円 2021年3月期 161,184百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2022年3月期	—	10.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	20.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	172,000	47.3	8,000	—	9,400	—	7,800	322.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	24,893,841株	2021年3月期	24,893,841株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	807,160株	2021年3月期	703,682株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	24,179,672株	2021年3月期3Q	24,438,149株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
受注及び販売の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高1,228億72百万円(前年同期比57.3%増)、営業利益51億93百万円、経常利益71億31百万円、純利益58億60百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間の連結受注は1,752億30百万円(前年同期比112.8%増)となりました。第3四半期の受注は前年同期に対して倍増しました。新型コロナウイルス感染症からの経済活動の立ち直りに伴い、受注が集中する状況が継続しました。

第3四半期(2021年10月～12月)における報告セグメント別の受注状況(現地通貨ベース)は以下のとおりです。

(当社報告セグメントはグループの販売体制をもとに構成しています。詳細については9ページを参照ください)

セグメントⅠ(「個別」および国内連結子会社)

牧野フライス製作所の国内受注は、前年同期を上回りました。自動車の金型向けと、半導体製造装置の部品加工向けを中心に様々な産業で増加しました。

第4四半期も同様の状況が続き、前年同期を上回ると見えています。

半導体製造装置の部品加工に、当社の航空機向け大型機を転用する取り組みが広がっています。また、航空機向けの部品加工をされるお客様が、半導体製造装置向けのビジネスに進出されています。

医療関連では、コロナウイルスワクチンの注射器のプラスチック金型やゴム金型のほか、手術器具の部品加工向けの引き合いも増えてきました。

感染症による影響で、密を避けるレジャー関連の需要が好調です。

工作機械メーカーの受注が活況にあることで、その部品加工向けの受注も増えています。

これらに加え、レーザ加工機の受注もありました。

セグメントⅡ(MAKINO ASIA PTE LTD)

アジアの受注は、全ての地域で前年同期を上回りました。

中国は、まとまった受注を獲得した第2四半期に比べ減少しました。前年同期比では上回りました。電気電子の金型向けや、自動車の金型および部品加工向けが好調を維持しました。

第4四半期は、第3四半期に比べ受注は減少する見込みです。春節による影響や、北京オリンピック開催に伴う移動制限の影響が出ると思われています。前年同期比では上回る見通しです。

インドは、前年同期を上回りました。自動車向けの受注が中心です。

第4四半期は自動車の金型や、一般機械向けで大型機の引き合いがあり、これらを受注に結びつけることで、前年同期を上回るよう努めます。

アセアンは、前年同期を上回りました。自動車の金型と、半導体製造装置の部品加工向け受注が中心でした。

第4四半期も同様の状況が続き、前年同期を上回ると見えています。

セグメントⅢ(MAKINO INC.)

前年同期を上回りました。

自動車のピックアップトラックや大型トラックの部品加工向け、インプラントなどの医療関連や半導体製造装置の部品加工向けの受注は、上期の水準に対して落ち着きました。前年同期に対しては増加しており、堅調を維持しています。航空機向け受注は、低迷した状況から底を打ち、上昇に転じました。

全体としては、高水準を維持する結果となりました。

サプライチェーンの混乱や、新型コロナウイルスの影響により、顧客が設備投資に対して以前よりも慎重になっています。その中でも、第4四半期は前年同期を上回る受注を維持する見通しです。

セグメントIV (MAKINO Europe GmbH)

設備投資需要の回復に伴い、自動車、半導体製造装置、医療関連、航空機など、様々な産業から受注があり、前年同期を上回りました。

第4四半期は、顧客の決算期後の季節要因等により、第3四半期に対し減少する見込みです。前年同期比では増加傾向を維持すると見えています。

現在の受注は一時的に強い需要に支えられ、高水準で推移しています。この状況はしばらく継続すると考えます。

当社は電子部品などの精密金型、半導体製造装置、インプラントなどの医療関連、新エネルギー車 (NEV) など、今後も継続して成長が見込める市場に向けた技術開発、提案の拡充に取り組んできました。

今後、需要が集中した反動により調整を受ける場合でも、引き続き成長市場からの受注を取り込み、売上増に努めます。

当社は、製造支援モバイルロボットiAssistを用いて社内の機械加工や組み立て工程の自動化を進めており、その実績をお客様に展開しています。

21年12月に当社厚木工場内に構築した5Gネットワークは、工場にサーバーを置かず、安全な閉域網を経由したクラウドサーバ上でiAssistの制御が可能です。これにより、当社の先進的な自動化システムを、安価で、かつ安心してお客様に利用いただけるよう取り組んでいます。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ239億76百万円増加し、3,039億92百万円となりました。主な増減としては、棚卸資産150億22百万円の増加、受取手形及び売掛金32億56百万円の増加、建設仮勘定19億21百万円の増加などが挙げられます。

負債につきましては、仕入債務120億91百万円の増加、短期借入金14億10百万円の減少などにより、前連結会計年度末に比べ167億87百万円増加し、1,348億11百万円となりました。

また、純資産につきましては、為替換算調整勘定29億7百万円の増加、利益剰余金51億35百万円の増加などにより、前連結会計年度末に比べ71億88百万円増加し、1,691億81百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想は、前回公表値 (2021年10月29日公表) を修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	72,032	71,613
受取手形及び売掛金	30,162	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	33,419
有価証券	3,343	3,445
商品及び製品	19,950	22,069
仕掛品	13,759	19,752
原材料及び貯蔵品	26,212	33,122
その他	6,376	8,872
貸倒引当金	△1,300	△1,095
流動資産合計	170,536	191,199
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	30,225	32,035
機械装置及び運搬具（純額）	9,357	8,695
工具、器具及び備品（純額）	4,539	4,454
土地	18,765	18,765
リース資産（純額）	3,954	4,095
建設仮勘定	2,909	4,831
有形固定資産合計	69,751	72,878
無形固定資産		
その他	4,122	3,581
無形固定資産合計	4,122	3,581
投資その他の資産		
投資有価証券	28,908	28,320
長期貸付金	801	718
繰延税金資産	2,664	3,251
退職給付に係る資産	281	427
その他	3,188	3,799
貸倒引当金	△239	△185
投資その他の資産合計	35,604	36,332
固定資産合計	109,478	112,792
資産合計	280,015	303,992

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,301	16,786
電子記録債務	8,523	17,129
短期借入金	1,410	-
1年内返済予定の長期借入金	4,350	4,850
リース債務	516	554
未払法人税等	632	1,023
その他	26,272	32,753
流動負債合計	55,006	73,096
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	28,347	26,857
リース債務	2,412	2,448
繰延税金負債	7,495	7,563
役員退職慰労引当金	119	127
退職給付に係る負債	2,922	3,092
その他	1,719	1,625
固定負債合計	63,016	61,714
負債合計	118,023	134,811
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,142	21,142
資本剰余金	37,074	37,074
利益剰余金	90,231	95,367
自己株式	△3,012	△3,412
株主資本合計	145,436	150,171
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,099	15,771
為替換算調整勘定	617	3,525
退職給付に係る調整累計額	△968	△1,110
その他の包括利益累計額合計	15,748	18,186
非支配株主持分	807	823
純資産合計	161,992	169,181
負債純資産合計	280,015	303,992

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	78,101	122,872
売上原価	60,831	89,900
売上総利益	17,269	32,971
販売費及び一般管理費	21,885	27,777
営業利益又は営業損失(△)	△4,615	5,193
営業外収益		
受取利息及び配当金	487	695
為替差益	-	300
助成金収入	841	536
その他	671	637
営業外収益合計	2,001	2,170
営業外費用		
支払利息	219	205
為替差損	142	-
退職給付費用	214	-
その他	12	27
営業外費用合計	587	232
経常利益又は経常損失(△)	△3,202	7,131
特別利益		
固定資産売却益	157	49
投資有価証券売却益	8	16
雇用調整助成金	640	6
特別利益合計	806	71
特別損失		
固定資産除却損	51	43
投資有価証券売却損	-	1
新型コロナウイルス対応による損失	892	-
特別損失合計	944	44
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△3,340	7,158
法人税等	529	1,281
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,869	5,877
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△10	17
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,859	5,860

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,869	5,877
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,889	△326
為替換算調整勘定	135	2,907
退職給付に係る調整額	409	△141
その他の包括利益合計	7,434	2,438
四半期包括利益	3,564	8,316
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,572	8,298
非支配株主に係る四半期包括利益	△7	18

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、国内における製品販売取引については、従来は工場出荷時において収益を認識しておりましたが、製品販売に付随する一部のサービスについてその役務提供完了時に収益を認識することに変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項のただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金期首残高に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度については新たな表示方法により組替えを行っておりません。

時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる影響はありません。

(追加情報)

連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(セグメント情報等)

報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの主な事業は工作機械の製造販売であります。製造は日本、アジアで行っており、販売は海外の重要拠点に子会社を展開して、グローバルな販売活動を行っております。従いまして、当社グループは下記Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの販売体制を基礎とした各社の所在地別のセグメントから構成されております。

報告セグメントⅠ. は牧野フライス製作所が担当するセグメントであり、主たる地域は日本、韓国、中国、大洋州、ロシア、ノルウェー、イギリス及びセグメントⅡ、Ⅲ、Ⅳに含まれないすべての地域です。さらに、国内関係子会社を含んでおります。

報告セグメントⅡ. はMAKINO ASIA PTE LTD(シンガポール)が担当するセグメントであり、主たる地域は中国、ASEAN諸国、インドです。

報告セグメントⅢ. は、MAKINO INC. (アメリカ)が担当しているセグメントで、南北アメリカのすべての国です。

報告セグメントⅣ. は、MAKINO Europe GmbH (ドイツ)が担当するセグメントであり、ヨーロッパ大陸(ノルウェーを除く)のすべての国です。

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	Ⅰ (百万円)	Ⅱ (百万円)	Ⅲ (百万円)	Ⅳ (百万円)	計 (百万円)
売上高					
1. 外部顧客に対する 売上高	22,888	28,166	21,933	5,112	78,101
2. セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,820	2,894	187	5	24,907
計	44,709	31,060	22,120	5,118	103,009
セグメント利益 又は損失(△)	△5,579	1,624	1	△1,080	△5,033

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	△5,033
未実現利益の消去他	417
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△4,615

II 当第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	I (百万円)	II (百万円)	III (百万円)	IV (百万円)	計 (百万円)
売上高					
1. 外部顧客に対する 売上高	30,969	53,607	30,449	7,845	122,872
2. セグメント間の内部 売上高又は振替高	45,725	6,294	264	60	52,345
計	76,695	59,902	30,714	7,906	175,218
セグメント利益 又は損失 (△)	△31	5,036	876	△590	5,290

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（百万円）
報告セグメント計	5,290
未実現利益の消去他	△96
四半期連結損益計算書の営業利益	5,193

3. その他

(1) 受注及び販売の状況

1. 受注の状況

受注高

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 自 2021年 4月 1日 至 2021年 12月 31日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	47,616	27.2	+97.5
II	68,381	39.0	+125.7
III	45,519	26.0	+99.5
IV	13,712	7.8	+167.6
合計	175,230	100.0	+112.8

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。

受注残高

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間末 2021年 12月 31日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	32,178	32.8	+69.8
II	26,256	26.8	+148.8
III	27,898	28.4	+106.2
IV	11,729	12.0	+87.8
合計	98,063	100.0	+99.0

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。

2. 販売の状況

販売実績

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 自 2021年 4月 1日 至 2021年 12月 31日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	30,969	25.2	+35.3
II	53,607	43.6	+90.3
III	30,449	24.8	+38.8
IV	7,845	6.4	+53.4
合計	122,872	100.0	+57.3

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。